



佐川 小学校高学年くらいですね。そのシリーズを作っていた編集担当者と一緒に働いているというのが、すごく不思議な感じがします。

小林 小峰書店の小林といいます。一九七四年生まれで、新卒で入りましたので、一五年めです。小さい頃に絵本や童話が好きだったんです。親が図書館によく連れて行ってくれたり、出身地の岐阜にあった「宝島」という児童書専門店に入り浸っていたり。椅子まであって「どうぞご自由に読んでください」というお店で、そこで読んでばかりいました。いまはもうないんですけどね。途中からはスポーツにはまって、本は読まなくなっていたんですけど、大学のとき就職活動する中でやっぱり好きだったものに立ち返って児童書出版社を受けて小峰書店に入ったという感じです。

橋口 童心社の橋口と申します。ぼくは一九六五年生まれです。児童書歴が二三年くらいなんですよ。そんなに長くやっつたのかなと思って、愕然としました。ぼくは本に囲まれた仕事というか、職場というかそういうのに漠然と憧れていたんです。それで、大学に残れば本に囲まれていられると甘い考えで大学院を受けましたが、当然、門前払いにされて、卒業後ブランクができて、その間アルバイトしながら、夏くらいからもう一回就職活動を始めて、出版関係の募集があればかたっぱしから履歴書書いて送る、と。